琉球大学学術リポジトリ

『牛痘一巻』(一八六八年) について：史料翻刻と紹介(上)

メタデータ	言語: Japanese
	出版者: 琉球大学法文学部
	公開日: 2016-08-03
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 豊見山, 和行, Tomiyama, Kazuyuki
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/34705

『牛痘一巻』（一八六八年）について―史料翻刻と紹介―（上）

豊見山和行

一、『牛痘一巻』について

本史料は、那覇市歴史博物館が所蔵する尚家文書の中の一点である。文書番号は五〇九号で、法量はタテ二六・二cm×ヨコ一九・二cm、墨付きは六七丁である。

牛痘法の導入を模索していた琉球国では、王国末期の一八六八年に、牛痘法の接種実験を沖縄島北部、羽地間切の屋我地島（現名護市）で行った。その際の経緯をまとめたものが本『牛痘一巻』であり、接種実験の詳細な記録となっている。それだけなく接種実験の結果を受けて、首里王府は従来、主に実施していた人痘種痘法から牛痘法への転換を決定した。その決定過程を知ることができる史料でもある。

二、本史料の概要と医術用語の若干の検討

本史料の概要は次の通りである。記載年代は、同治七（一八六八）年の閏四月八日から同年一〇月一四日までの約七ヶ月に及ぶものである。大部分は首里王府評定所と接種実験の舞台となった屋我地島に滞在した医者たちとの往復文書から構成されている。その中には、同年六月に牛痘係御医者の浜川親雲上が「牛痘之儀、当分御試被仰付、追々其明験有之筈候得共、於唐和右法術相用、天行痘相免り候次第、且右ニ付名醫共之評論等、大略左條ニ申上候」と牛

痘法の流布と医術的効果について名医らの所見に関する意見具申書も収録されている。

さて、本史料には独特の医術用語が散見される。人痘接種後の症状を表すものとして「催」、「色」の出現、「水かミ」、「きんミ入」、「引」という諸用語である。これらの用語は病態を表すものであるが、『牛痘一巻』には、それらに関する解説はない。ただし、『疱瘡伝上巻』（上江洲家文書、第一三四号）において、その手がかりとなる記述がある。なお、『疱瘡伝上巻』について略述すると、「亥八月　渡嘉敷親雲上」とあり、著者は渡嘉敷親雲上、作成年は一八五一（咸豊元）年か一八六三（同治二）年のいずれかの亥年と推定される。著者の渡嘉敷親雲上は、年代は不明ながら清国へ渡航し、同国の医師から医術を伝授されていた。

『疱瘡伝上巻』の「疱瘡日数」という項目には次のようにある。

一、疱瘡大略の日数ハ、發熱三日、見點三日、起脹三日、灌膿三日、収靨三日、共に十五日、是其定数也、然れとも輕きものハ定数之内に入、十二三日に相仕廻候ものあり、重きものハ定数の外に出て、十八九日に相仕廻候ものもあり、定数に拘ハるへからす、只瘡色明潤、瘡根紅活にして飯食二便常の如く別に障りなきものハ日数押延候而も恙なし、若瘡出候時に当て不出、起る時に当て不起、きんミ入候時に当て不膿、引候時に当て不引ものハ其症を分別して薬を服すへし、

このことから疱瘡に感染すると、およそ発熱三日、見点三日、起脹三日、灌膿三日、収靨三日の計十五日間で症状が推移するとある。『牛痘一巻』における「催」しは発熱、「色」は見点、「みずかミ」は起脹、「きんミいろ（入り）」は灌膿、「引」くは収靨に対応している。

現代医学において、疱瘡（天然痘）の病態に関する次の記述は参考となる。

天然痘の症状はほぼ規則的な経過をたどる。天然痘ウイルスに感染すると、一般的に一二日くらいの潜伏期ののちに、突然、頭痛、筋肉痛、関節痛などと一緒に熱が出てくる。これが二ないし三日間続いたのち蕁麻疹や紫がかった斑点が現れる。これは前駆疹と呼ばれるもので、こののち、熱が下がり、天然痘に特有の斑点のような発疹が現れる。三ないし六日の間にふたたび熱が出て、水疱や膿疱（膿が含まれる水疱）が広がり、同時に全身に痘疱と呼ばれる発疹が出現する。痘疱の多くは直径一〇ミリメートル位で、半球状に盛り上がり中心部がへこんで、臍のような形になる。これが天然痘の典型的な病態で発痘期と呼ばれている。痘疱が出現する部位は頭、顔、手足などの露出部分が主で、とくに手のひらや足のかかとに現れる点が特徴的である。（中略）発疹後、一二ないし一四日頃から膿疱は乾燥して痂皮となり、痘疱は表皮が脱落して瘢痕となる。これが天然痘から回復したのちに残る「あばた」である。（山内一也『近代医学の先駆者　ハンターとジェンナー』、岩波書店、二〇一五年、一〇ページ）。

この記述と前掲の『疱瘡伝上巻』を併せて検討すると、『牛痘一巻』での病態は、最初の発熱を「催」、皮膚に発疹（斑点）が発生することを「色」、皮疹に液体が溜まり水疱となることを「みずかミ」（起眼）、水疱の液が膿となることを「きんミ入り」（滿膿）、膿疱が乾燥しカサブタが形成されることを「引」（収靨）と表現していたと言えよう。

以上、『牛痘一巻』を読解する上で難解な医術用語について簡略ながら検討を加えた。

なお、本史料の翻刻に当たっては、所蔵機関の那覇市歴史博物館より掲載許可の御高配を賜った。末筆ながら記して謝意を表わすものである。

〔凡例〕

1：旧漢字と当用漢字が混在しているが、史料に従って翻刻した。

2：合字の「より」は作字せず、平仮名で「より」とした。

3：本文中で傍記された文字は、「　」で括り、本文中に組み入れた。

4：本文に間書きで挿入され返答書で、長文のものは、「＊」で本来の文言の位置を示し、本文書状の末尾に移して、＊「　　」とした。

5：翻刻の形式は、行数・字数ともに、本紀要の字数にあわせて編集した。

6：翻刻者の責任によって、適宜、読点をつけた。

7：紙幅等の関係から本号では史料本文全体の約半分を掲載し、残りの部分は次号に掲載する。

（表紙）

牛痘一巻

一冊

（内題）

大清同治七年戊辰

牛痘一巻

日本明治元年　　評定所

大清同治七年戊辰閏四月八日より同十月十四日迄

口上言上

疱瘡之儀、当夏唐より瘡痂持渡候ハヽ、所柄見合植次仕置、秋之比時行方被仰付度段者、去年及上聞候通ニ而、羽地間切屋我地所柄相應可致段、御醫者中吟味を以申出候間、於彼所植次仕、尤致植次候童子共者世上江廻文差通申出させ、左候而右植次方ニ付而者、看病人共列越大粧仕事御座候間、相應之御心附被成下度旨、御書院奉行「当詰居無之付」伊舎堂親方御取次達上聞相済候事、

辰

閏四月八日

羽地間切於屋我地、所之者江疱瘡植次被仰付候ハヽ、御米仕上世其外段々差支之訳有之、先達而御免之願申出候付、御醫者中江再吟味申渡候處、屋我地之儀木蔭涼敷、五六月茂冷氣有之候上、海路ニ而風氣防方之為ニ茂宜敷、旁以可致相應所柄候間、疱瘡植次仕候童子共者他所より列越、於彼所植次方被仰付度申出候付、弥其通被仰付度旨被達上聞相済候、右付係醫者并疱瘡植次仕候童子共看病人等相列、追々差越筈候間、饒平名村江人家十軒程者家内人数別所江引移宿拵為致候様、自然右壱ヶ村ニ而者難賦付儀茂候ハヽ、我部村江茂賦方可被申付候、「尤所中」疱瘡風氣移入候而者至而差障候付、防方不入念候而不叶、於御國元者天行痘相時行候節、其所江牛痘植付候ハヽ、相鎮候由候間、右近邊者都而牛痘植付方被仰付度、是又御醫者中申出有之、其通被仰付候間、右疱瘡植次候人家

近邊者童子共徘徊不致様、取締向入念候上、都而牛痘植付させ、幾重ニ茂風氣之移無之様可取計旨、間切役々江堅可被申渡候、依御差圖、此段致問合候、以上、

閏四月十一日　　末吉親雲上

御物奉行

右之通被仰渡置候間、其手組いたし、疱瘡植次候童子共人躰相究候ハヽ、兼而列越居、瘡痂到来次第少茂無支植次候様、且所中風氣之移無之様、別段牛痘係醫者差下、右近邊者牛痘植付方被仰付候間、各ニ茂申談、他所江風氣不移越様可被取計候、依御差圖、此段致問合候、以上、

附、疱瘡植次候童子共者、看病人等列越大粧仕事ニ而、一人付米壱石五斗、錢五千貫文御心附被成下候、為心得此段茂申達候、

閏四月十一日

疱瘡植次係

仲村渠筑登之親雲上

田場親雲上

手形

一米壱石五斗先、

一錢五千貫文、

右者当夏、唐より疱瘡痂持渡候ハヽ、羽地間切於屋我地、秋之比迄植次被仰付事ニ而、差越植次仕候童子共一人付、
右通御心附被成下候間、其首尾方可被申渡者也、

辰
閏四月十四日　　御物座
取次　末吉親雲上

御物奉行

本文御双紙庫理末吉親雲上ニ而遂披露、本紙者申口方江相渡候也、

覚

寒水川村嫡子仲村渠筑登之嫡子
当歳七　思加那

同人娘当歳九　真嘉戸

鳥小堀村嫡子佐久本筑登之娘
当歳八　真鶴

大中村次男田場筑登之親雲上嫡子
当歳十三　真蒲戸

同人次男当歳八　思亀

山川村三男田場筑登之嫡子
当歳十五　樽金

真和志村次男仲村渠筑登之嫡子
当歳十　思加那

同人娘当歳十三　思戸

同人娘当歳四　真鶴

山川村三男田場筑登之次男
当歳十二　松金

同人娘　思亀

大中村次男田場筑登之親雲上三男
当歳三　松金

御断

崎山村嫡子上江洲里之子次男
当歳九　樽金

同人娘当歳拾四　真蒲戸

同人娘当歳拾弐　思戸

当蔵村次男上里筑登之親雲上娘
当歳十三　真鶴

同人娘当歳六　思戸

桃原村嫡子新垣筑登之嫡子
当歳六　松金

同人次男歳三　　樽金

赤田村嫡子田場筑登之親雲上三男
当歳四　　真山戸

同村嫡子田場筑登之親雲上娘
当歳三　　思亀

鳥小堀嫡子渡慶次筑登之親雲上
娘当歳九　　真鶴

同村嫡子渡慶次筑登之娘
当歳四　　真鍋

大中村嫡子仲村渠筑登之親雲上嫡子
当歳六　　思加那

同人娘当歳三　　思戸

右、羽地間切於屋我地、疱瘡植次人数面立書如斯御座候、以上、

辰

閏四月　　田場親雲上

仲村渠筑登之親雲上

王舅御迎船より持渡候疱瘡痂之儀、御醫者仲村渠筑登之親雲上昨夜恩納番所江一宿仕居候付、右瘡痂請取候様申達置、今日湖平底津口江参り候付、王舅附醫者泉川筑登之親雲上御船より持下仲村渠江相渡、如屋我地差越申候、此段致問合候、以上、

閏四月廿六日　　湖平底津口ニ而

新垣親雲上

玉城親方

末吉親雲上

接貢船より持渡候疱瘡痂之儀、請取候而如屋我地差越、係醫者江相渡させ可申候、此段致問合候、以上、

閏四月廿八日　　湖平底津口ニ而

新垣親雲上

玉城親方

末吉親雲上

本文五月二日到来、

疱瘡々痂之儀、去ル廿六日於湖平底仲村渠筑登之親雲上請取、昨日々柄宜敷有之候付、童子六人江吹薬仕、接貢船より茂夜前九ツ時分瘡痂相届候付、為念来月二日弐人者吹薬仕候考御座候、残而四人者右吹薬仕置候童子共出次第、右瘡痂を以吹薬仕可申候、追々相催次第委細可申上候、先為早々此段致問合候候、以上、

閏四月廿九日　　田場親雲上

仲村渠筑登之親雲上

御評定所
月番

疱瘡痂之儀、去月廿八日童子六人江吹薬仕、去二日ニ茂弐人者吹薬仕候考ニ而相催次第委細可申越段、先達而問合有之候處、于今様子無之候間、何分之次第早々可被申越候、奉行衆依仰、此段致問合候、以上、

五月八日　　御評定所　月番方

田場親雲上

仲村渠筑登之親雲上

本文五月十一日到来、則日写方を以評定所筆者ニ而御近習心得迄入披見候也、

疱瘡人之儀、先達而茂申上置候通、去月廿八日六人吹薬仕置、昨日迄十一日めニ相成候得共、為何様子茂無之、私

共ニ茂至極念遣奉存居申候處、昨晩より壱人者致發熱、催之模様相見得至極安堵仕居申候、追々色見得次第夜中懸而御首尾可申上候、先為早々此段御問合候、以上、

五月十日　　田場親雲上

仲村渠筑登之親雲上

御評定所
月番方

本文五月十二日夜到来、翌日写方を以評定所筆者ニ而御近習心得迄入披見候也、

一昨日より相催候段、昨日問合申上候疱瘡人之儀、醫者仲村渠筑登之親雲上娘ニ而、今朝より致見點、熱氣弱輕之模様相見得申候、且去二日弐人者吹薬可仕段御御問合申上候處、初發之事ニ而、瘡氣薄可有之与、為念四人吹薬仕、其内三人者昨晩より致發熱相催申候間、宜可被申上候、猶委細之儀者両三日内夜中懸而可申上候、此段御問合候、以上、

附、疱瘡一件付、早々申越候様今月八日問合、今日九ツ時分相届申候、

五月十一日　　田場親雲上

仲村渠筑登之親雲上

御評定所
月番方

本文遂披露候處、申出通被仰付候間、早々試方を以何分可被申出候候、尤致試方疎童子共御心附向之儀、追々様子次第被成下筈候、以上、

辰
五月十二日　　末吉親雲上

覚

「本文試方仕候次第御双紙庫理末吉親雲上ニ而御近習心得迄相達サセ候也」

今般天行疱瘡、唐より御申請被仰付、此節帰唐船便より瘡痂持下候付、いまた牛痘不仕童子共拾弐人、羽地間切屋我地ニ而吹薬仕、追々出揃申筈御座候、依之牛痘一件いつれ茂申談候者、九年成申九月今帰仁間切上運天・下運天弐ヶ村江牛痘仕置候童子共之内拾人、当分屋我地江泊村饒平名筑登之親雲上差下、植付候童子共之内拾人都合弐拾人、天行痘差發し候童子共宿々江賦入、壱弐ヶ月程昼夜召置候ハヽ、天行痘風氣相移り可申哉、尤相移候ハヽ、輕重如何御座候哉、弥相移り不申候ハヽ、無此上仕合之儀ニ而、何れ之筋早々御試不被仰付候而不叶儀与奉存候間、濱川・浦崎両人之間壱人差越、夫々御試被仰付、左候而右之成行者両間切役々江委細被仰渡候上、右童子弐拾人無病之者共、役々ニ而見調部させ候上、猶又彼所罷下居候醫者共江茂入見分候様被仰付度、勿論愚昧之百姓等何そ之御心附茂無御座候而者何歟ニ事寄、請合兼候者茂可有之候間、相應之御心附被成下候而、何様可有御座哉与いつれ茂申談、此段奉得御差圖候、以上、

辰
五月　　泉川筑登之親雲上

伊波親雲上
租慶筑登之親雲上
稲福筑登之親雲上
浦崎親雲上
濱川親雲上

此節羽地間切於屋我地、童子共江天行疱瘡致吹薬置候付、追々相催候ハヽ去申年今帰仁間切上運天・下運天弐ヶ村江牛痘仕候童子共之内拾人、当分泊村饒平名筑登之親雲上屋我地江罷下、牛痘仕候者共より拾人都合弐拾人賦付を以、右天行疱瘡仕候者共宿々江壱弐ヶ月程昼夜召置、風氣可相移哉、且相移候ハヽ軽重之所等試方被仰付度旨、御醫者中申出有之、浦崎親雲上被差下試方被仰付候間、右賦之通牛痘仕候者共拾人宛無病之者見合、屋我地江詰居候御醫者共引合を以天行疱瘡試方いたし候様可被取計候、童子共御心附向、当分者何程与員数難取究、追々様子次第被成下候間、後日何分吟味を以可被申出候、以上、

辰　　末吉親雲上
五月十二日

羽地間切今帰仁間切
下知役
検者
さはくり中

本文五月十五日到来、則日写方を以評定所筆者ニ而御近習心得迄入披見候也、

一昨日三人相催候段、御問合申上候人数之儀、弐人者次男田場筑登之親雲上嫡子・次男、壱人者三男田場筑登之次男ニ而、昨晩より色相見得、且同人嫡子江者一昨日晩より相催し申候、醫者仲村渠筑登之娘今朝より水かミ追々きんミ入候模様ニ而、都合五人共至極軽之躰相見得、私共ニ茂別而安堵仕居申候間、此旨宜可被申上候、猶委細之儀者両三日内夜中懸而可申上候、此段致御問合候、以上、

五月十三日　　田場親雲上

仲村渠筑登之親雲上

御評定所
月番方

本文五月十八日到来、則日写方を以評定所筆者ニ而御近習心得迄入披見候也、

覚

寒川村嫡子醫者仲村渠筑登之娘当歳九
真嘉戸

大中村次男田場筑登之親雲上嫡子当歳拾三
真蒲戸

同人次男当歳八
思亀

山川村三男田場筑登之嫡子当歳拾五

田場子

同人次男当歳拾弐

松金

右者醫者仲村渠筑登之娘者昨晩よりきんミ入、次男田場親雲上次男者今朝よりきんミ入、同人嫡子幷三男田場筑登之次男江者昨日より水かミ、同人嫡子江者昨日より色相見得、何れも瘡位氣分など宜、飯食茂平日之通相進、私共ニ茂別而安堵仕居申候間、宜被申上候、猶委細之儀者両三日内夜中懸而可申上候、此段致御問合候、以上、

附、疱瘡人御首尾向之儀、向後名面村付歳付迄茂委相記させ候様、一昨日之問合昨晩相届申候、

五月十六日

田場親雲上

仲村渠筑登之親雲上

御評定所

月番方

本文五月廿三日到来、則日写方を以評定所筆者ニ而御近習心得迄入披見候也、

去十六日、御問合申上候醫者仲村渠筑登之娘真嘉戸幷次男田場筑登之親雲上次男思亀江者昨日より瘡痂相おくれ、両人共輕引仕廻させ申候、且又同人嫡子真蒲戸幷三男阿波筑登之次男松金江者一昨日よりきんミ入、昨日より引、同人嫡子田場江者一昨日より「水かミ昨日より」きんミ入、今朝より引申候、瘡高茂百粒又者五六拾粒「三拾粒」迄出、五人共氣分宜敷、食事茂平日之通相進申候、尤催より引仕廻迄日数相早り候儀、畢竟瘡位宜敷、輕之所より右通可有之与奉存候間、此所茂取添宜被申上候、猶委細之儀者両三日内夜中懸而可申上候、此段致御問合候、以上、

五月廿日　　田場親雲上
　　仲村渠筑登之親雲上
御評定所
月番方

本文右同断、

覚

寒川村醫者仲村渠筑登之嫡子当歳七
真三良

右去月廿八日今月八日両度吹薬仕候得共、催之様子茂無之候處、一昨日より致發熱、相催申候間宜被申上候、此段致御問合候、以上、

五月廿日　　田場親雲上
　　仲村渠筑登之親雲上

御評定所
月番方

本文同日到来、遂披露、本紙者申口方江相渡候也、

覚

山川村三男田場筑登之三男当歳三

思加那

右者大中村次男田場筑登之親雲上三男松金事、疱瘡植次可仕段、先達而面付書を以申上置候處、当分虫氣之障有之、植次方難成次第御座候間、右思加那江繰替被仰付候候様宜被申上候、此段致御問合候、以上、

五月廿日　　田場親雲上

仲村渠筑登之親雲上

御評定所

月番方

本文遂披露候處、試方者申出候通人数者先年牛痘仕候童子弐人、当分植次候童子弐人、都合四人被仰付候、以上、

辰

五月廿三日　　末吉親雲上

覚

本文試方仕候次第、日頃主取小禄親雲上を以御近習心得迄相達させ候也、

天行疱瘡、羽地間切屋我地ニ而植次被仰付候付、兼而牛痘仕居候方天行疱瘡風氣ニ而相移可申哉、右試方として浦崎親雲上屋我地江罷下申候、然處天行痘吹薬・植痘等仕候ハ、相發可申哉、尤相發候得者輕可有之哉、いつれ此節夫々御試不被仰付候而不叶儀与存申候間、今煩仁間切上運天・下運天ニ而先年牛痘仕置候童子五人、当分饒平名筑登之親雲上植次候童子相仕廻候者五人、都合拾人、右屋我地ニ而夫々御試被仰付候而者何様可有御座哉、弥其通被仰付御事候ハ、、右童子無病之者見調部并夫々之試方、彼之所詰合之醫師共江被仰付度、何れ茂申談、此段奉得御

差圖「候間」、何分ニ茂御賢慮之上、被仰付度奉存候、以上、

辰
五月

伊波親雲上
租慶筑登之親雲上
稲福筑登之親雲上
濱川親雲上

羽地間切屋我地ニ而、天行疱瘡次方被仰付候付、兼而牛痘仕候童子共之内、天行疱瘡風氣ニ而相移可申哉、試方被仰付置候處、猶又先年今帰仁間切上運天・下運天弐ヶ村江牛痘仕候童子并当分饒平名筑登之親雲上屋我地ニ而植次候童子相仕廻候者共之内江「天行痘」吹薬植痘等いたし候ハ、相發可申哉、又者差發候而茂輕く可有之哉、夫々試方被仰付度旨、御醫者中申出有之、其通被仰付候間、右童子共之内弐人宛都合四人、間切役々相合無病之者見合、天行疱瘡試方いたし、何分之次第委細可被申越候、以上、

辰
五月廿三日

末吉親雲上
浦崎親雲上
仲村渠筑登之親雲上
田場親雲上
饒平名筑登之親雲上

右之通被仰付候条、可被得其意候、尤童子共御心附向之儀、追々様子次第被成下候間、後日何分吟味を以可被申出候、以上、

辰
五月廿三日

羽地間切今帰仁間切
下知役
検者
さはくり中

本文五月廿六日到来、則日写方を以「御近習」高安里之子親雲上御取次、備上覧、

口上覚

乍恐申上候、私嫡子思加那事、於屋我地疱瘡植次方御免之上先達而列下、去月廿八日ニ者痘瘡痂、今月十九日ニ者新瘡痂を以両度吹薬仕候得共、于今催之躰無之、折角待兼居候砌、浦崎親雲上罷下、右思加那ニ者兼而牛痘植付候付而者天行痘相催不申候間、強而吹薬不致様ニ而承、何共存外之儀ニ而妻江相尋候處、右思加那外戚之祖母江者浦崎親雲上隣所ニ而、去年浦崎方江右祖母より引列、醫者兼村筑登之親雲上江牛痘植付させ候由、乍然夫ニ而者引合不申噂有之候付、何卒天行痘ニ而吹薬為致度候付、本生方ニ者不申披段申出有之候、去年之儀者私事、豊見城王子内ニ而上國仕、其上思加那ニ者外戚之祖父母江介抱方頼置候付、於私者右一件毛頭存不申、右通列下至極恐入奉存

候、此旨宜様被仰上可被下儀、奉頼候、以上、

辰　　大中村次男
五月廿四日　　仲村渠筑登之

右申出通思加那事、兼而牛痘植付置候を不穿鑿ニ列下、至私茂恐入奉存候間、何分ニ茂宜様被仰上度奉存候、以上、

辰　　御醫者
五月廿四日　　仲村渠筑登之

本文、右同断、

去廿日、御問合申上候次男田場筑登之親雲上嫡子真蒲戸并三男田場筑登之嫡子田場子、同人次男松金事、一昨日より瘡痂相おくれ、氣分宜、食事茂平日通相進、皆共輕引仕廻させ申候、且又醫者仲村渠筑登之嫡子真三良江者昨日より致發熱相催候段、御問合申上候處、昨日迄色不相見得熱茂相去、咳氣之形相違無御座候、且又殘童子共江茂去十九日より同廿二日迄吹薬仕置申候、催次第委細可申上候間、旁宜被申上候、此段致御問合候、以上、

五月廿四日　　田場親雲上
仲村渠筑登之親雲上

御評定所
月番方

本文、五月廿九日到来、則日写方を以御双紙庫理末吉親雲上ニ而御近習心得迄入披見、左候而牛痘植付置候者江試方之儀申越通可被召延哉、追々吟味を以相達候段茂相心得させ候也、

覚

一私事、去廿二日今帰仁間切江差越、兼而牛痘植付置候童子共拾人、饒平名村江差越、天行痘出候童子共入交させ候様、さはくり中江申達候處、饒平名村童子共差越候ハヽ、看病人茂一同差越不申者不相成、当時稻刈取候取中、引次御米仕上世極々繁多之時節差懸、間ニ風氣相移候而者至而差支可申候間、御米仕上世相済迄之間延之段申出、饒平名村茂同断之訳を以申出、此上者押而申付候様ニ茂難致次第御座候間、御米仕上世相済迄之間御延被仰付候而者何様可有御座哉、弥其通被仰付御事候ハヽ、饒平名村之儀、今帰仁・羽地両間切より多人数出入仕事ニ而、寄之津口〳〵硫磺燃し、風氣不移越様取計不仕候而不叶事御座候間、硫磺三拾斤乞下申様被仰付度奉存候、

一爰元江罷下居候疱瘡人拾弐人之内、田場召列候童子共六人之内四人者引仕廻、残弐人者去廿弐日吹薬仕置□候、仲村渠筑登之親雲上召列候童子六人之内、「一人者引仕置」壱人者昨晩より催之模様相見得申候、残四人者是迄弐三度吹薬仕候得共、催之様子茂無之候付、見調部仕候處、壱人者牛痘植付置候者ニ而、苑角今迄相催不申筈与相察居申候、猶委細之儀者追々可申上候、

右、旁宜被申上候、此段致御問合候、以上、

五月廿五日　　浦崎親雲上

御評定所
月番方

大中村次男仲村渠筑登之嫡子思加那、去月廿八日唐渡之瘡痂、今月十九日ニ者新瘡痂を以両度致吹薬候得共、于今催之様無之、右思加那者兼而牛痘植付置候を不存ニ而列下、恐入仕段、父仲村渠并御醫者仲村渠筑登之親雲上より

御断被申越趣遂披露候、然者右思加那事、于今疱瘡催之様致吹薬、いまた日数無間茂候得者、追々相催し候茂難計、殊更兼而牛痘植付置候者候得者、餘之疱瘡相催候童子共一所ニ召置、弥天行痘差發不申候ハヽ、再出不致所、試之為ニ茂猶委敷可相成候間、浦崎親雲上江茂申談、其許江召置、試方いたし候様可被取計候、此段致問合候、以上、

五月廿七日　　末吉親雲上

仲村渠筑登之親雲上

田場親雲上

覚

生硫磺三拾斤

但、蓮荷作ニ而封まゝ、

右、羽地間切於屋我地、疱瘡次方被仰付候付、他所江風氣移越候儀茂可有之哉、防方として所々江焼せ方被仰付度旨、係醫者申越有之、本業之員数宿次を以下方被仰付候間、宿々宰領人相付無滞持越、彼許詰係醫者江相渡させ候様、取納奉行江可被申渡候、以上、

附、壱番宿者明早朝宰領人持夫召列、納殿江罷出請取候様、是又可被申渡候、

六月朔日　　末吉親雲上

御物奉行

本文、六月二日到来、翌三日写方を以評定所筆者ニ而、御近習心得迄入披見候也、

覚

大中村次男仲村渠筑登之娘当歳十三
思戸

右、去廿五日より致發熱相催、昨日より色相見得瘡位氣分等宜敷、至極輕之躰見得申候、催之段者早速御問合可申上之處、爰許之儀当時咳氣茂相時行候付、色不相見得内者取究難成、是迄扣居為申事御座候、左候而残り人数相催候節茂色見得次第御問合仕筈御座候間、御都合宜被申上候、此段致御問合候、以上、

五月廿九日

田場親雲上
仲村渠筑登之親雲上
浦崎親雲上

御評定所
月番方

本文遂披露候處、都而申出候通被仰付候間、早々人躰相調部差下、其首尾可被申出候、以上、

辰
六月三日

末吉親雲上

覚

「本文試方仕候次第御双紙庫理
末吉親雲上を以御近習心得迄相達
させ候也」

羽地・今帰仁両間切童子共之内、牛痘出仕廻候者弐拾人、天行痘吹試、又者風氣ニ而相移可申哉、旁為御試、彼之所江被仰付候處、当時稻刈之砌引次御米仕上世差懸り、右相済迄之間延之断申出候付、其通ニ而茂可相済哉、且牛痘不仕童子共江茂天行痘、今風氣弱く有之候而茂相移可申哉、彼是試方之次第、且右試之童子何拾人江被仰付候而可相済哉、旁吟味を以可申上旨、被仰渡趣承知仕候、依之いつれ茂申談候者、右御米仕上世之儀、七月末比迄相懸積ニ而、夫々より者追々天行痘一統江之風氣時行方之時節差懸、右彼是之試方何共相調不申儀与奉存候間、天行痘吹試并風氣試等各五人宛、都合拾人首里より御見合被仰付、尤御心付米銭之儀茂天行痘植次之者共同断被成下度、且又牛痘不仕童子今風氣弱く有之候而茂相移可申哉、いつれ此節夫々御試不被仰付候而不叶儀与存申候間、弥思召通被仰付、左候而右試之童子者天行痘植次之者共三拾人相済候内より五人、天行痘相發候宿々江牛痘相仕廻候者一同入交ニ而御試被仰付候而可宜与奉存候、弥前文牛痘御試之者拾人被仰付御事候ハヽ、無病之童子見しらへ等者牛痘係之醫師共ニ見合為申出候上、私共ニ茂見調部方被仰付度いつれ茂吟味仕、此段申上候而御賢慮之上何分被仰付度奉存候、以上、

巳(註2)

六月

伊波親雲上

租慶筑登之親雲上

稲福筑登之親雲上

濱川親雲上

羽地・今帰仁両間切童子共之内、牛痘植付置候者江羽地間切於屋我地、天行疱瘡吹薬、又者風氣ニ而相移可申哉、

相移候ハ、輕重之所等試之為先達而浦崎親雲上被差下置候處、当時稻刈取候取中引次御米仕上世極々繁多之時節差懸差支可申候間、御米仕上世相済迄之間延之段両間切役々申出趣有之、押而申付候様ニ茂難致候間、仕上世相済迄之間「被召延候而者」何様可有之哉之旨、浦崎より被申越紙面相達遂披露、御醫者中江吟味被仰渡候處、御米仕上世之儀、七月末比迄相懸積ニ而、夫より者追々天行痘一統江之風氣時行方之時節差懸、右彼是之試方何共相調得不申候間、天行痘吹試幷風氣試等各五人宛、都合拾人首里より御見合被仰付、尤御心付米銭之儀茂天行痘植次之者共同断被成下、左候而右童子共之儀、無病之者より牛痘係之醫者共江見合申出させ候上、御醫者中ニ茂見調部方被仰付度旨申出候付、都而申出之通被仰付人躰茂早々見合、其許江差下候様、被仰渡置候、

一天行疱瘡之儀、今程者風氣弱有之、夫故牛痘植付候者江容易ニ風氣不相移様ニ茂可有之哉、いまた牛痘不致童子共ニ茂、天行疱瘡相催候宿々江牛痘相仕廻候者入交ニ而、試方いたし候而者何様可有之哉之旨、是又御醫者中江吟味被仰渡候處、弥其通被仰付、左候而右童子共之儀、天行痘次方として兼而究置三拾人之内より五人見合、天行痘相催候宿々江被召置候様申出有之、其通被仰付候間早々右五人相賦、宿々江召置候様可被取計候、

一其許之儀、今帰仁・羽地両間切より多人数出入仕事ニ而取寄之津口〳〵硫磺燃し、風氣不移越様取計不申者不叶事候間、硫磺三拾斤下方被仰付度旨、被申越趣を茂相達、構之向江申渡、右員数差下させ候間、取寄之津口〳〵硫磺燃方為致、左候而疱瘡人宿々江他所之者共出入一切差留、其外風氣不移越様厳重取締可被致候、

右返答旁申越候間、被得其意、夫々行届候様可被取計候、以上、

六月三日　　末吉親雲上

浦崎親雲上

仲村渠筑登之親雲上

田場親雲上

手形

一米壱石五斗先、

一銭五千貫文、

右者羽地間切於屋我地、天行疱瘡次方被仰付候付、兼而牛痘植付置候童子二茂天行痘再出いたし否哉之所、御試之為牛痘出仕廻候童子拾人、彼之許江被差□(下カ)候付、一人付右通御心附被成下候間、其首尾方可被申渡者也、

辰

六月三日　　御物座　取次　末吉親雲上

御物奉行

羽地間切於屋我地、童子共疱瘡次方仕候付、諸規式隔日出仕等

出御不被遊候處、遠方差離候付而者疱瘡人召置候宿々他所之者共出入差留候上、津口〳〵江硫磺焼方候ハヽ、今程風氣之移、念過無之段、御醫者中申出候間、当分者諸御規式隔日出仕等被遊

出御御門々硫磺焼候儀茂引取候様被仰付被下度旨、被達

上聞相済候、就而者於其元ニ取締向、猶以不入念候而不叶事候間、前文通之締向者勿論、其外萬事氣を付厳重致取締、風氣不移越様可被取計候、依仰此段致問合候、以上、

六月四日　　末吉親雲上

浦崎親雲上
仲村渠筑登之親雲上
田場親雲上

六月四日到来、翌日写方を以評定所筆者差遣、御近習心得迄入披見候也、

覚

山川村三男田場筑登之娘当歳七
思亀

右、去廿七日晩より致發熱相催、昨日より色相見得熱氣弱早速より硬飯相給、瘡位氣分等宜、至極輕之模様相見得、且又去月廿九日致御問合候仲村渠筑登之娘思戸ニ者、昨日より水かミ是又輕有之、至私共茂別而安堵仕居候間、被申上候、此段致御問合候、

以上、

六月朔日

田場親雲上
仲村渠筑登之親雲上

御評定所
月番方

本文右同断、

大中村次男仲村渠筑登之嫡子思加那事、先達而牛痘植付置候付、天行痘出候童子共一所ニ召置再出不致所、猶委敗致試方候様被仰越趣承知仕候、幸右思加那姉者疱瘡取中ニ而一所ニ召置食事茂一同相進させ、当分試方仕事御座候間、猶委敗相試追々何分可申上候、先為早々此段致御問合候、以上、

六月朔日　　田場親雲上

仲村渠筑登之親雲上

御評定所

月番方

今帰仁間切上運天「下運天」弐ヶ村江先年牛痘仕候童子并当分饒平名筑登之親雲上羽地間切屋我地ニ而植次候童子相仕廻候者共之内江弐人宛都合四人天行痘吹薬植痘等いたし、夫々相試候様被仰渡趣承知仕、早速両間切役々召寄申達候處、当時稲刈取候取中引次御米上納差懸百姓共極々繁多之砌ニ而、御請難仕、御米上納相済申迄之間御「延」被仰付度旨願出、段々致相談候得共諸合不申候、然處羽地間切饒平名村住居太工廻里之子子共両人、先達而牛痘相仕廻候者罷在、壱人付米三俵・銭弐千五百貫文宛御心付被成下候ハ、願之段、村所より申出趣有之候間、其通被仰付候而者何様可有御座候哉、此段奉得御差図候間、何分ニ茂御賢慮之上被仰付度奉存候、以上、

辰

六月　　饒平名筑登之親雲上

田場親雲上

仲村渠筑登之親雲上

浦崎親雲上

手形

一米九斗先、

一銭弐千五百貫文、

右、羽地間切饒平名村住居太工廻里之子子共両人、兼而牛痘相仕廻候者二而、右間切於屋我地天行疱瘡再出否哉之所、御試被仰付候付一人二付、右通御心付被成下候間、其首尾方可被申渡候也、

辰
六月七日

御物座
取次　末吉親雲上

御物奉行

本文御双紙庫理末吉親雲上二而遂披露、本紙者申口方江相渡候也、

覚

赤平村謝花筑登之親雲上次男当歳拾
真三良

崎山村次男嘉数筑登之嫡子当歳五
子樽金

同村嫡子当真筑登之親雲上嫡子当歳拾弐

真三良

同村嫡子手登根筑登之女子当歳八

真鍋

烏小堀村次男長男嫡子当歳拾

思戸

同村次男新垣子女子当歳拾四

真鍋

久場川村金城筑登之嫡子当歳拾四

真蒲戸

同村嫡子久場筑登之嫡子当歳八

思戸

右、兼而牛痘仕置候童子共江疱瘡御試方被仰付候付、而立書如斯御座候、以上、

辰

六月

牛痘係御醫者

濱川親雲上

右之通相違無御座候、以上、

辰

六月

伊波親雲上

祖慶筑登之親雲上

稲福筑登之親雲上

本文右同断、

覚

赤田村嫡子田場筑登之親雲上三男　真山戸

同村嫡子田場筑登之娘　思亀

烏小堀村嫡子渡慶次筑登之親雲上娘　真鶴

同村嫡子手登根筑登之女子当歳八　真鍋

烏小堀村嫡子渡慶次親雲上娘　真鍋

同村嫡子渡慶次筑登之娘　真錫

大中村嫡子仲村渠筑登之親雲上嫡子　思加那

右者羽地間切於屋我地、疱瘡植次被仰付候付、再調部仕候處、相違無御座候、以上、

辰

六月　濱川親雲上

右之通相違無御座候、以上、

一羽地間切於屋我地、牛痘植付置候者江天行疱瘡再出否哉之所、御試被仰付候付、右間切饒平名村住居太工廻里之子子共両人、壱人ニ付米三俵・銭弐千五百貫文宛御心附被成下候ハヽ、願之段申出候間、其通被仰付度旨被申越趣相達、爰許より被差下候人数之内、弐人者被召滅、右太工廻子共両人江被仰付、御心附茂願出通被成下候間右之趣相達、早々其元江召寄試方可被致候、

一右試方之儀、人数差分を以吹薬、又者風氣ニ而可相移哉、両様ニ取計候様、先達而致問合置候處、先以吹薬之儀者差「控」居、疱瘡人一所ニ召置、皆共風氣を以致試方、乍其上不相移儀茂候ハヽ、吹薬ニ而相試候様可被相心得候、右旁申越候、以上、

六月　　末吉親雲上

浦崎親雲上

仲村渠親雲上

田場親雲上

本文六月六日到来、翌七日写方を以評定所筆者差遣、御近習心得「迄」入披見候也、

当月朔日御問合申上候仲村渠筑登之親雲上娘思戸江者一昨日よりきんミ入、昨日より引申候、且三男田場筑登之娘思亀江者居申候間、宜被申上候、此段致御問合候、以上、

六月四日　　田場親雲上

仲村渠筑登之親雲上

御評定所

月番方

同日到来、

覚

疱瘡人之儀、瘡痂相おくれ候而より廿日之日数相成候ハヽ、首里江差登候而茂風氣移越等之念遣者有御座間敷与奉存候間、御醫者中江茂吟味被仰付度、疱瘡相仕廻候方爰許江長々罷在候而者困窮之者共夫長迷惑筋相懸、其上於間切茂諸雑費相増候次第茂御座候付、此段奉得御差圖候間、何分ニ茂御賢慮之上被仰付度奉存候、以上、

辰
五月

田場親雲上
仲村渠筑登之親雲上
浦崎親雲上

覚

疱瘡人之儀、瘡痂相落候而より弐拾日之日数相成候ハヽ、首里江差登候而茂風氣移越等之念遣者有御座間敷旨、屋我地江相詰候御醫者共申出趣有之候付、吟味被仰渡私共申談候者、疱瘡人之儀、瘡痂相落弐拾日之日数相成候而茂其所ニ而植次仕候間者右風氣早晩相含ミ可申積ニ而、首里差登候儀至極念遣敷、殊更

上々様未御凌茂不遊御座御事候得者、旁以右申出御免之方ニ者難存当事御座候間、一統江右風氣時行方御免無之内者其所江被召置候而可然与吟味仕、此段申上候、以上、

辰

六月

伊波親雲上

祖慶筑登之親雲上

稲福筑登之親雲上

濱川親雲上

疱瘡人之儀、瘡痂相落候而より廿日之日数相成候ハヽ、首里江差登候而茂風氣移越等之念遣無之候間、御醫者中江茂吟味被仰付、疱瘡相仕廻候方首里江差登候様被仰付度旨、被申越紙面相達、御醫者中江吟味被仰渡候處、瘡痂相落廿日之日数相成候而茂其所ニ而疱瘡次方仕候間者風氣早晩相含ミ可申積ニ而、首里江差登候儀至極念遣敗、殊ニ上々様未御凌茂不遊御座御事候得者、一統江右風氣時行方御免無之内者、其所江被召置候方可然段申出、其通被仰付候間、右之趣被得其意、其内者吃与致取締、一統江時行方被仰付候節、首里江可被差登候、乍返答此段申越候、以上、

六月九日　　末吉親雲上

浦崎親雲上

仲村渠筑登之親雲上

田場親雲上

本文六月九日夜到来、翌日写方を以評定所筆者差遣、御近習心得迄入披見させ候也、

去四日御問合申上候仲村渠筑登之娘思戸事、一昨日より瘡痂相おくれ、三男田場筑登之娘思亀江者一昨日より引、今日より瘡痂相おくれ、両人共輕引仕廻させ申候間、宜被申上候、致御問合候、以上、

六月七日　　田場親雲上

仲村渠筑登之親雲上

御評定所
月番方

同日右同、

覚

烏小堀村佐久本筑登之娘　　真鶴

大中村次男仲村渠筑登之嫡子　　思加那

兼而牛痘植付置申候

同人娘　　真鍋

山川村三男田場筑登之三男　　思加那

右者是迄弐三度吹薬仕候得共催之様子茂無之候、重而試薬仕何分可申上候、此段致御問合候、以上、

六月七日　　田場親雲上

仲村渠筑登之親雲上

御評定所
月番方

疱瘡次方として其許江差越居候大中村次男田場筑登之親雲上子共之内、首里江罷登居候段噂有之候付、田場親雲上名代召寄相尋させ候處、右田場筑登之親雲上三男松金其許到「着」以来虫氣之障ニ而吹薬難成、早速より別所江引移居候處、若哉風氣移入候儀茂可有之哉念遣ニ存、去月廿五日其許出立、所々一宿ニ而、今月二日爰許帰着仕居候段申出有之候、右ニ付風氣之移念遣者有之間敷哉与、御醫者中江吟味「申渡」候處、右者ニ者彼表到着早速より虫氣之障ニ而、別所江引移居為申由ニ者候得共、疱瘡人隣所江為罷在事候得者、若哉風氣感し居候儀茂可有之哉、至極念遣存候間、重而其元江差越させ候様申出有之候間、早々其元江差越候様申渡置候、然者当時世上江相時行候而者至而差支可申、殊更

上々様当分風氣御慎茂不被遊御座候付而者、風氣不移越様取計可入念旨、先達而申越置趣茂有之候處、彼是之弁茂無之、右次第何共如何之至候、右松金ニ者虫氣ニ而首里江差登風氣移越之念遣無之与存候共、何分得御差圖候上可取計之處無其儀、其許迄ニ而差免首里江差登候儀至極大形之至、今形ニ而者風氣移越候儀も可有之哉、別而御念遣被思召候間、前件之趣得与得其意、以来右躰之者者別所得引移致療治、首里江不差登様可被相心得候、此上なから重而右様之仕形茂候ハヽ、其許詰合之面々屹可及御沙汰候条、聊疎略相心得間敷候、依仰此段致御問合候、以上、

附、右松金ニ者其許到着次第風氣不行渡場所柄見合召置、壱ヶ月程茂相試候上、風氣之念遣無之候ハヽ首里江可被差登候、

六月十日　　末吉親雲上

浦崎親雲上
仲村渠筑登之親雲上
田場親雲上

赤田村嫡子田場筑登之親雲上
三男　真山戸
同村嫡子田場筑登之娘　思亀
烏小堀村嫡子渡慶次
筑登之親雲上娘　真鶴
同村嫡子渡慶次筑登之娘　真鍋
大中村嫡子仲村渠筑登之
親雲上嫡子　思加那
同人娘　思戸

右、羽地間切於屋我地、疱瘡次方仕候人数之内二而候得共、牛痘相仕廻候童子共一同風氣二而可相移哉否哉之所、御試方として此節被差下候間、吹薬之儀者差扣右通致試方、自然其内疱瘡次方差支候儀茂候ハヽ、御差圖之上可被取計候、此段致問合候、以上、

六月十三日　末吉親雲上

浦崎親雲上
仲村渠筑登之親雲上
田場親雲上

其許江差越居候大中村次男仲村渠筑登之嫡子思加那事、兼而牛痘仕居候者二而、弐三度致吹菜候得共、催之様子無之由、就而者重而吹菜不及候間、其侭召置相試候様可被取計候、此段致問合候、以上、

六月十三日　　末吉親雲上

浦崎親雲上
仲村渠筑登之親雲上
田場親雲上

其許江差越居候田場筑登之親雲上三男松金、首里江罷登風氣之移念遣有之候付、重而其許江被差下、右付来廿日迄者諸御規式、隔日出仕等
出御不被遊様有御座度旨、被達
上聞相済候、右通御慎向ニ相懸事ニ而締向段々被仰渡置候處、何様之訳ニ而右通差登候哉、成行書面を以早々可被申越候、左候而以後締向入念、童子共者勿論、右列下居候面々ニ茂首里江差登候儀堅可差留候、依仰此段致問合候、以上、

六月十三日　　末吉親雲上

浦崎親雲上

仲村渠筑登之親雲上

田場親雲上

其間切於屋我地、天行疱瘡次方并兼而牛痘仕廻候者共天行痘再出否哉之所、御試為被仰付致再出候ハ、天行痘時行方者秋之比被仰付筈ニ而、其内風氣不移越様ニ与之儀者喆之御醫者江段々締向被仰渡置候處、疱瘡次方として被差下置候人数之内、田場筑登之親雲上三男松金虫氣之由ニ而吹薬難成、内々首里江罷登風氣之移念遣有之候付、重而其元江被差下、右ニ付十日之日数者御門々硫磺焼、諸御規式隔日出仕為

出御不被遊候、右通御慎向相懸、且世上茂暑氣之比疱瘡相時行候而者至而差支申事候處、彼是之弁茂無之、畢竟喆之御醫者大形ニ付、其御取扱被仰付筈候、以後右様之仕形共有之候而者風氣可移越哉与甚御念遣之御事候条、件之趣被得其意、間切向ニ而屹与致取締、別紙之人数者勿論、童子共列下候面々ニ茂首里江不差登様可被取計候、依御差圖、此段致問合候、以上、

六月十三日　　末吉親雲上

羽地間切

下知役

検者

本文六月十三日夜到来、翌日写方を以評定所筆者差遣、御近習心得迄入披見させ候也、

覚

山川村三男田場筑登之三男当歳三　　思加那

右、去八日より致發熱相催、昨日より色相見得、熱氣弱瘡位氣分等宜敷食事も相進、格別輕之模様ニ而、至極安堵仕居申候間、宜被申上候、此段致御問合候、以上、

六月十一日　　田場親雲上
仲村渠筑登之親雲上

御評定所
月番方

本文同日到来、

覚

当蔵村次男上里筑登之親雲上娘　　真鶴

同人娘　　思戸

右、去八日爰許到着、道中之草臥無之候付、翌九日吹薬仕置申候、崎山村上江洲里之子次男樽金、同人娘真蒲戸・思戸、都合三人者明日爰許到着仕筈ニ而、道中之草臥無之候ハヽ、来十四日吹薬仕候考御座候間、宜被申上候、此段致御問合候、以上、

六月十一日　　田場親雲上

仲村渠筑登之親雲上

御評定所
月番方

本文同日到来、

覚

桃原村嫡子新垣筑登之次男先達而
罷居申候　　樽金

赤田村嫡子田場筑登之親雲上三男　　真山戸

同村嫡子田場筑登之娘　　思亀

烏小堀村嫡子渡慶次筑登之親雲上娘　　真鶴

同村嫡子渡慶次筑登之娘　　真鍋

右者、天行痘次方として兼而被究置候三拾人之内、四番目相当候付、今月末比被差下候様御問合申上候考御座候處、牛痘不致童子共天行痘催候宿々江牛痘相仕廻候者一同入交ニ而、風氣相移可申哉、試方いたし候様、当月三日被仰越趣承知仕、右五人試方仕申度御座候間、御案内之上早々米銭被乞下、米廿日被差下候様宜被申上候、此段致御問

合候、以上、

六月十一日　　田場親雲上

仲村渠筑登之親雲上

浦崎親雲上

御評定所
月番方

同日到来、

太工廻里之子子共両人、先達而牛痘植付置候付、風氣ニ而相移可申哉、早々試方いたし候様被仰渡趣承知仕候、当分迄者風氣盛ニ無之候付而者、右太工廻子共両人者吹薬仕、追々首里より罷下候童子共之内江風氣試方被仰付候而者何様可有御座哉、左様御座候ハヽ、試方茂相早り可申与奉存、此段御差圖候間、御賢慮之上被仰付度奉存候、以上、

辰
六月　　浦崎親雲上

同日到来、

「＊」

疱瘡人瘡痂相おくれ候而より廿日之日数相成候ハヽ、首里江差登候而茂風氣移越等之念遣者有御座間敷与奉存、当月朔日奉得御差圖候處、于今御様子無之候間、何分之御問合早々被仰越候様宜被申上候、此段致御問合候、以上、

六月十一日　　田場親雲上
仲村渠筑登之親雲上
浦崎親雲

御評定所
月番方

＊「返答
本文一件者当月九日
被仰越置事ニ而、取早相届
為申半与存申候、以上、
六月十八日　　御評定所
月番方
田場親雲上
仲村渠筑登之親雲上
浦崎親雲上」

本文六月十五日夜到来、翌日写方を以評定所筆者差遣、御近習心得迄入披見させ候也、

覚

烏小堀村佐久本筑登之娘当歳八
真鶴

右、一昨日より致發熱相催、今日より色相見得、瘡位氣分等宜食事も相進、格別輕之模様ニ而、安堵仕居申候間、宜被申上候、此段致御問合候、以上、

六月十三日

田場親雲上
仲村渠筑登之親雲上
浦崎親雲上

御評定所
月番方

同日到来、

一昨日御問合申上候三男田場筑登之三男思加那事、今日より水かミ瘡位氣分等宜、食事茂相進ミ、格別輕之模様ニ而安堵仕居申候、且又次男田場筑登之親雲上三男松金事、昨日饒平名村到着仕申候間、宜被申上候、此段致御問合候、以上、

六月十三日

田場親雲上
仲村渠筑登之親雲上
浦崎親雲上

御評定所
月番方

太工廻里之子子共両人者吹薬仕、首里より罷下候童子共之内江風氣試方被仰付候而者何様可有之哉之旨、被申越紙面相達遂披露候處、吹薬之儀者差扣、先達而申越置候通之振合を以試方被仰付候間、其心得可被致候、此旨及返答候、以上、

六月十七日　　末吉親雲上

浦崎親雲上

仲村渠筑登之親雲上

田場親雲上

〔以下、後半は次号掲載〕